

## 大垣養老高等学校吹奏楽部

私たちは「一音心奏」を合言葉に、毎日練習に励んでいます。日々の練習では、美しい音を追及するとともに、どういうフレーズで演奏するか、全体の中での自分のパートの役割は何か、よく考え、感じるように気をつけています。学業や生徒会活動などの学校内の他の活動や私生活ともバランスを取りながら、楽しく真剣に音楽活動をしています。

音楽を通じて、地域の方々に喜んでいただいたり、多くの仲間とつながったりして、人生を豊かにすることが私たちの目標です。

**練習時間** 平日 月～金 15:50～18:30(4月～9月)  
月～金 15:50～18:00(10月～3月)  
土日 土日いずれか半日、時々1日  
(イベントなどで土日両方部活の場合平日に休み)

**定期演奏会** 春(2～3月) スプリングコンサート  
秋(9月) 定期演奏会(3年生引退公演)  
いずれも場所は養老町民会館大ホール



R4. 10月 管楽合奏コンテストのための練習後のハロウィンパーティー

創部以来の大会成績

	年度	成績	曲目	トピック
1	H 1 8	朝日県 B 銅賞	ドリーブ作曲 バレエ音楽「シルヴィア」より前奏曲・狩りの女神	音楽室で活動開始
2	H 1 9	朝日県 B 銀賞	福島弘和作曲 花の歌	伊藤一彦先生講師として着任
3	H 2 0	朝日県 B 金賞	バーンズ作曲 ドイツ民謡によるコラール・プレリュード	
4	H 2 1	朝日県 B 金賞	ロバート・W・スミス 伝説のアイランド	
5	H 2 2	朝日県 B 金賞代表 中日県小優勝 朝日東海 B 銀賞	ギリングハム作曲 エアロダイナミクス	
6	H 2 3	朝日県 B 金賞代表 朝日東海 B 銀賞	シCHEDリン作曲 バレエ音楽「せむしの仔馬」より	
7	H 2 4	朝日県 A 銀賞	ブロッセ作曲 ヨハン・デ・メイ 編曲 タンタン～太陽の神殿～	
8	H 2 5	朝日県 B 金賞代表 中日県小金賞代表 朝日東海 B 銀賞 中日本大会小銀賞	ホルジンガ作曲 春になって王達が戦いに出るに及んで	
9	H 2 6	朝日県 B 金賞	A. リード作曲 オセロより I、III、IV	
1 0	H 2 7	朝日県 B 金賞代表 中日県小金賞 朝日東海 B 銀賞	ホルジンガ作曲 スクーティン・オン・ハードロック	
1 1	H 2 8	朝日県 B 金賞代表 朝日東海銅賞	シCHEDリン作曲 バレエ音楽「せむしの仔馬」より	
1 2	H 2 9	朝日県 A 銀賞	ホルジンガ作曲 スクーティン・オン・ハードロック	

1 3	H30	朝日県 B 金賞 朝日東海 B 銀賞	B. オルフ作曲 カルミナ・ブラーナより第 1、 9、10、12、13 楽章	長年顧問を務め られた松岡先生 転勤
1 4	R1	朝日県 B 金賞代表 朝日新聞社賞 朝日東海 B 銀賞	S. メリロ作曲 ワンスモア・アントゥ・ザ・ブリ ーチ	
1 5	R2	コロナ禍のためコン クール中止 管楽合奏コンテスト 録音審査優秀賞	P. グレインジャー作曲 リンカンシャーの花束より	
1 6	R3	朝日県 B 銀賞 管楽合奏コンテスト 録音審査優秀賞	B. アッペルモント作曲 サガ・キャンディーダ	
1 7	R4	朝日県 B 金賞代表 朝日新聞社賞 中日県小金賞 朝日東海 B 銀賞 管楽合奏コンテスト 全国大会優秀賞	J. B. チャンス作曲 交響曲第 2 番より II、III	

#### 学校統合から創部まで

吹奏楽部は、旧養老女子商業高校の部活動でした。平成 17 年度の夏まで、養老校舎(旧養老女子)で活動していました。1 年生 1 人、2 年生 3 人、3 年生 10 人の計 14 人で夏のコンクールに出た後、3 年生が引退して、部員が 4 人になる大ピンチが訪れました。大垣校舎に活動拠点を移して、新しくスタートするしかないと決意したものの、旧大垣農業の大垣校舎には、音楽室がない！途方に暮れそうになったとき産振棟 3 階の角にある空き部屋を貸していただけることになり、養老校舎の部員 3 人を顧問が毎日送迎して半年間活動しました。流通情報実習室という名のその部屋は、理科の実験室のような雰囲気の一部屋でした。窓からは、建設中の東館の工事の様子がよく見えました。クレーンが動くときの警告音で「メリーさんの羊」のメロディーが流れていたことが不思議と記憶に残っています。部員は、大垣校舎の生徒が入部してくれて 8 人に増え、顧問 2 人も楽器を吹いて吹奏楽祭や文化祭にも出演できました。翌年 1 年生が 18 人入部し、コンクールには途切れることなく出場できて今に至っていますが、学校統合の谷間で過ごした流通情報実習室での半年が、今の部活動の原点です。

なお、平成 18 年度入学生頑張りが、今日の部活動発展の基礎になっているという認識のもと、創部の年は平成 18 年と定めています。